明治大学平和教育登戸研究所資料館 第12回企画展　　アジア太平洋戦争開戦80年

参謀本部と登戸研究所による

対中国謀略

事前予約制

予約方法は当館HPをご覧いただくか、お電話でお問い合わせください

2021 **11/17**（水） » 2022 **3/26**（土）

オンライン開催はこちらから

【開館時間】10:00〜16:00　【休館日】日曜〜火曜、祝日、2021年12月26日（日）〜2022年1月7日（金）、1月15日（土）、2月5日（土）　【入館料】無料

【展示開催場所】明治大学平和教育登戸研究所資料館およびオンライン https://www.meiji.ac.jp/noborito/event/index.html

後援：川崎市、川崎市教育委員会

特記事項	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、感染状況により、学内関係者のみの開館または臨時休館となる場合がございます。ご来館前に当館HPを確認いただくか、当館へお問い合わせください。

明治大学平和教育登戸研究所資料館

The Defunct Imperial Japanese Army Noborito Laboratory Museum for Education in Peace, Meiji University

〒214-8571　神奈川県川崎市多摩区東三田 1-1-1　明治大学生田キャンパス内

TEL/FAX 044-934-7993　E-mail noborito@mics.meiji.ac.jp

https://www.meiji.ac.jp/noborito/　https://www.facebook.com/Noboritoshiryoukan

https://twitter.com/meiji_noborito　https://www.instagram.com/meiji_noborito/

Web　Facebook　Twitter　Instagram

ごあいさつ

明治大学平和教育登戸研究所資料館は，2010（平成 22）年 3 月 29 日の開館以来，今日までに 8 万人以上の皆さまにご来館いただき，大学内外から多くの反響をいただいております。

このたび本資料館では，《参謀本部と登戸研究所による対中国謀略－アジア太平洋戦争開戦 80 年－》と題して第 12 回企画展を開催するはこびになりました。

企画展のサブタイトルにもありますように，今年はアジア太平洋戦争（1941 ～ 1945 年）の開戦から 80 年目にあたります。この戦争は，一般に対英米戦争として捉えられがちですが，この戦争の最中も当然のことながら日中戦争は続いていました。

今回の企画展では，アジア太平洋戦争前からの日中戦争にさかのぼりつつ，大戦中も継続して展開されていた様々な対中国謀略に焦点をあてて，参謀本部と登戸研究所が果たした役割について検証したいと思います。《謀略》とは，秘密戦の 4 要素（防諜・諜報・謀略・宣伝）の一つであり，戦争を有利にするために行われる相手を攪乱する行為のことです。

武力戦と並んでアジア太平洋戦争前から行われた対中国謀略には，大きく分けて政治謀略と経済謀略があります。政治謀略の最たるものは，中華民国国民政府（蔣介石政権）からその実力者の一人である汪兆銘を日本側に取り込んで，蔣政権の分裂・弱体化を図るもので，これは 1940 年 3 月の汪兆銘政権の成立を経て，「梅機関」（影佐機関）によって継続されました。この汪政権の支配基盤を確固たるものにしようという地域支配のための工作が「清郷工作」です。

また，経済謀略として特に重要なものが，登戸研究所もそれを担った偽札の散布です。経済謀略は，元々は日本軍占領地における通貨工作として始まり，日本側の傀儡政権の通貨（例えば汪政権の儲備券）や日本軍の軍票を流通させて蔣政権側の法幣を駆逐しようとするものでしたが，なかなかうまくいきませんでした。そのため，日本軍は，蔣政権の紙幣の偽札を大量に散布することで，中国経済を混乱させ，あわせて日本側の物資調達を図るという新たな経済謀略に力を注ぎました。

今回の企画展では，アジア太平洋戦争中も展開された対中国謀略の実態について検証し，対英米戦争の根源にある日中戦争について認識を深め，戦争というものの諸側面について振り返るための一助としたいと思います。

2021 年 11 月 17 日

明治大学平和教育登戸研究所資料館館長　　山田　朗

はじめに

謀略とは，戦争を有利に運ぶための工作などを指します。

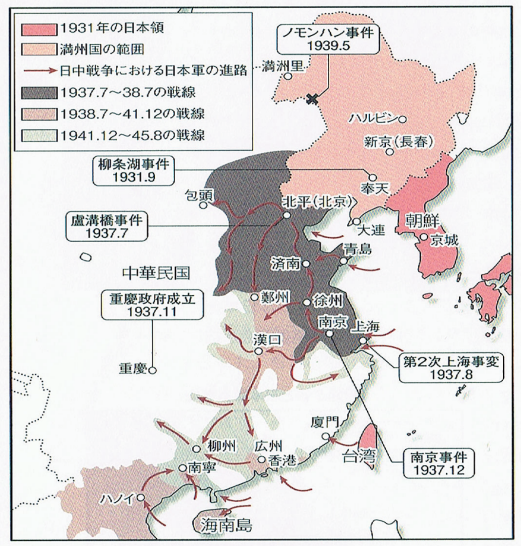
日中全面戦争の最中，1940年3月，日本の傀儡（かいらい）政権といわれた汪兆銘（おうちょうめい）政権が成立しました。これは，参謀本部の影佐禎昭（かげささだあき）が主導した影佐機関（別名「梅機関」）が行った謀略によるものでした。そして，この謀略と登戸研究所は，参謀本部による対中国謀略の大きな枠組みの中で繋がっていたのです。

本企画展では，汪政権のナンバー2であった周仏海（しゅうふっかい）の日記や，汪兆銘政権の勢力を確固たるものとするための「清郷（せいごう）工作」の極秘の報告書などを取り上げ，影佐機関が行ったことがらと，登戸研究所で製造された秘密戦資材や偽札が対中国謀略の一翼を担っていたことを詳らかにし，参謀本部による対中国謀略とその中における登戸研究所の役割と意味を検証します。

第１章　日中全面戦争と登戸研究所

1937（昭和 12）年，北平（現・北京）郊外での盧溝橋事件以降，満州国に接する北平を含む華北地域から日本軍は南進，日中戦争は泥沼化します。1939（昭和 14）年には蒋介石政権軍との軍事衝突を繰り返し，戦況は持久戦にもつれ込んでいきました。

1940（昭和 15）年３月には，日中戦争の打開策のひとつとして，陸軍は傀儡（かいらい）政権である汪兆銘政権を成立させます。その背後では参謀本部による謀略が行われ，登戸研究所も軍の拡大していく要求に呼応するように拡充・発展しました。



日中戦争要図
宮地正人監修 / 大日方純夫，山田朗，山田敬男，吉田裕著『日本近現代史を読む』（新日本出版社，2010 年）より

（1）　参謀本部の期待と登戸研究所の拡大

盧溝橋事件が起こった 1937 年，電波兵器開発のため陸軍科学研究所登戸実験場がこの生田の地にやってきました。

日中戦争の戦局が悪化すると，陸軍内では中国経済を壊滅に陥れて戦争を終結させる，という構想が生まれ，参謀本部でも経済謀略が画策されました。登戸研究所ではその一端を担うため，特殊工作遂行のための資材・兵器開発がより期待され，さらに，敵対する蒋介石政権が発行する紙幣（= 法幣）の偽造を行うことになります。その結果として，1939 年，登戸研究所には秘密戦資材（兵器）開発部門である第二科と偽札製造部門である第三科が設置され急拡大し，「陸軍科学研究所登戸出張所」となりました。

1939 年に新設された科

第二科：秘密戦兵器開発

第三科：偽造法幣製造

1941 年撮影航空写真（国土地理院所蔵）を資料館加工
この後，敗戦まで登戸研究所は拡大を続け，最終的には写真右手方向の丘陵へも敷地を拡げた。

（2）　謀略に使用された登戸研究所の秘密戦兵器

日中全面戦争下では，登戸研究所の秘密戦兵器開発部門の前身，陸軍科学研究所 篠田研究室に対し参謀本部からの要求が増大し，研究内容も人員も膨らみました。そこで篠田研究室は科学研究所から分かれ，生田の地に移動し登戸出張所の第二科となります。第二科の変遷と，第二科に対し増大していった参謀本部の要求を，秘密戦兵器開発の初期から研究に携わった登戸研究所第二科第一班長 伴繁雄が残した中国への出張記録から考えます。

謀略に使用された秘密戦兵器ー伴繁雄の記録

次の表は伴の中国大陸への出張記録です。戦局悪化による秘密戦の変化に伴い，秘密戦兵器そのものとその使用目的の変遷を生々しく伝えます。初期の情報収集法の教育と思（おぼ）しき出張内容が，汪兆銘政権成立前後には，破壊（テロ）行為のための資材実験へと変化しています。これは参謀本部の影佐機関が成立させた傀儡政権の勢力拡大ほう助のため，上海を中心に繰り返し実行されたテロ行為の実行教育と考えられます。またその後の青酸ニトリルの人体実験は，暗殺方法の確実性向上に対するニーズを受け，その効果を人体実験で検証するという段階まで秘密戦研究がエスカレートしたことがわかります。

年月日	行先	出張目的・内容
1927(昭和 2) 年 4 月　伴繁雄，浜松高等工業学校卒業後，陸軍科学研究所に採用，篠田鐐（りょう）のもとで秘密戦兵器開発開始		
1937(昭和 12) 年 11/9-25	中華民国：上海	戦闘中の上海で秘密戦のノウハウや技術を習得
1938(昭和 13) 年 11/4-12/6	満州国：新京，ハルビン	参謀本部からの命で篠田に出張命令，伴は助手として同行 / 新京で関東軍憲兵に秘密戦講義・実習などを実施 / 教育内容：科学的秘密通信法および発見法，郵便検閲法ほか
1939(昭和 14) 年 9 月，陸軍科学研究所 篠田研究室が生田へ移動，陸軍登戸研究所 (出張所) 第二科となる…陸軍省軍務課による秘密戦兵器の製造・調達体制の整備完了		
同年 9/4-10/20	満州国	関東軍情報部からソ連・満州国境での秘密戦技術的要望を受ける / 兵器化の要望内容：敵軍用犬からの追跡防避剤 (エ号剤)，潜入行動資材としての補力剤 (軽量携帯食料，強力栄養剤，頭脳と目の補力剤，疲労回復剤) など
1940(昭和 15) 年 2/3-3/4	中華民国：南京，上海	南京・上海における戦地での登戸研究所製謀略兵器・資材の実験とデモンストレーション…主として汪兆銘政権の勢力拡大を目指す工作目的か？ / 実験器材：爆破・殺傷 (放火) 用謀略資材としての缶詰型爆弾，レンガ型爆弾，秘密通信手段としての秘密インキ，秘密通信用紙，紫外線型白色蛍光鉛筆など
1941(昭和 16) 年 5/9-6/28	中華民国：南京	参謀本部からの命で中支那防疫給水部で中国の捕虜に対し青酸化合物 (登戸研究所製青酸ニトリルなど) の人体実験
1942(昭和 17) 年 12/20- 翌年 1/16	中華民国：上海	上海の特務機関で二度目の青酸ニトリルの人体実験

（3）　登戸研究所に偽札製造部門が設置された理由

参謀本部主導の偽札謀略の「兵器」である偽札製造部門が登戸研究所に設置されたのは次のような背景がありました。

中国の経済を崩壊させるため「偽札をばらまくことで，法幣の勢力を弱める」という謀略は，1930 年代には参謀本部の岩畔豪雄（いわくろひでお）が発案し，極秘裏に進められていました。それを，当時，参謀本部第七課（別名・支那課）の山本憲蔵が 1939（昭和 14）年春に工作実施案を完成させ，本格化したのです。

また，この時すでに岩畔は，登戸研究所で製造することを決定していました。その理由として以下のことが考えられます。

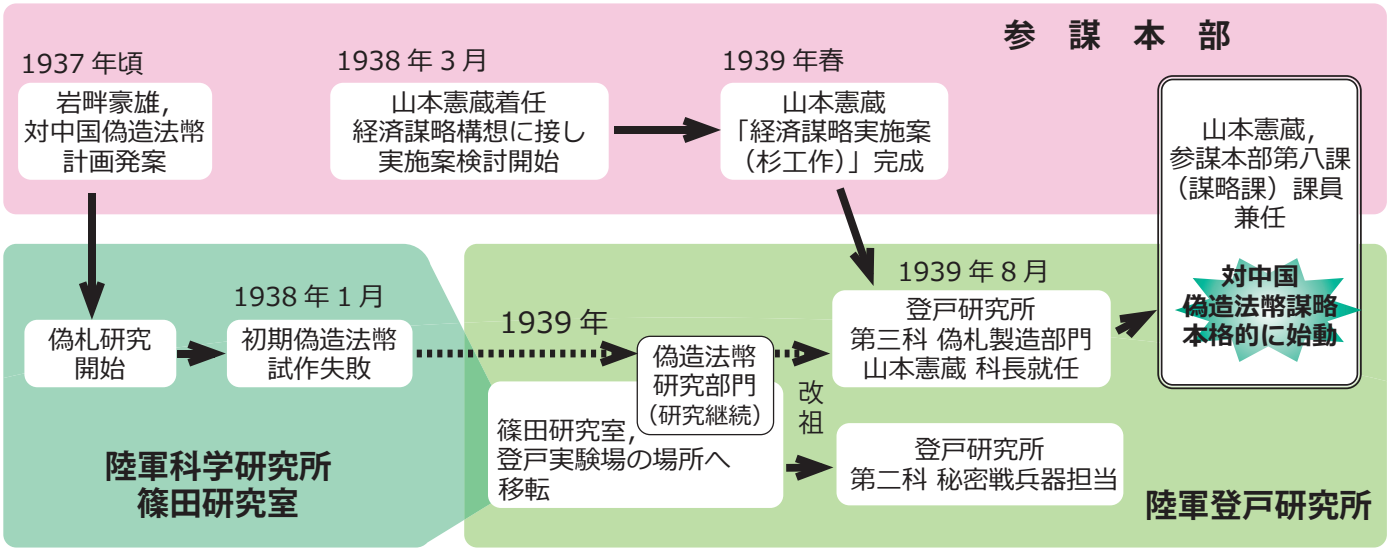
・前身である陸軍科学研究所 篠田研究室（主任：後の登戸研究所長 篠田鐐（りょう））の時代から，従来の兵器の枠に収まらない新しい兵器開発研究を全て引き受けていた

・そのため，山本が具体案を立案する以前，陸軍科学研究所時代から，内閣印刷局の技師を引き抜き，偽造法幣の研究を行っていた

こうした情況から，登戸研究所に偽札製造部門が設置され，その現場責任者として山本憲蔵が登戸研究所第三科長に就任，さらには工作を進めやすいよう参謀本部の第二部第八課（別名・謀略課）課員を兼任しました。

偽札製造を主導したのが参謀本部であったことには必然性があります。というのも，全て参謀本部の構想する対中国経済謀略の枠組みに組み込まれたものであったからです。

登戸研究所に偽札製造部門が設置されるまで



第２章　日本の対中国謀略

ここでは参謀本部が構想していた各工作と大きな枠組みを明らかにします。

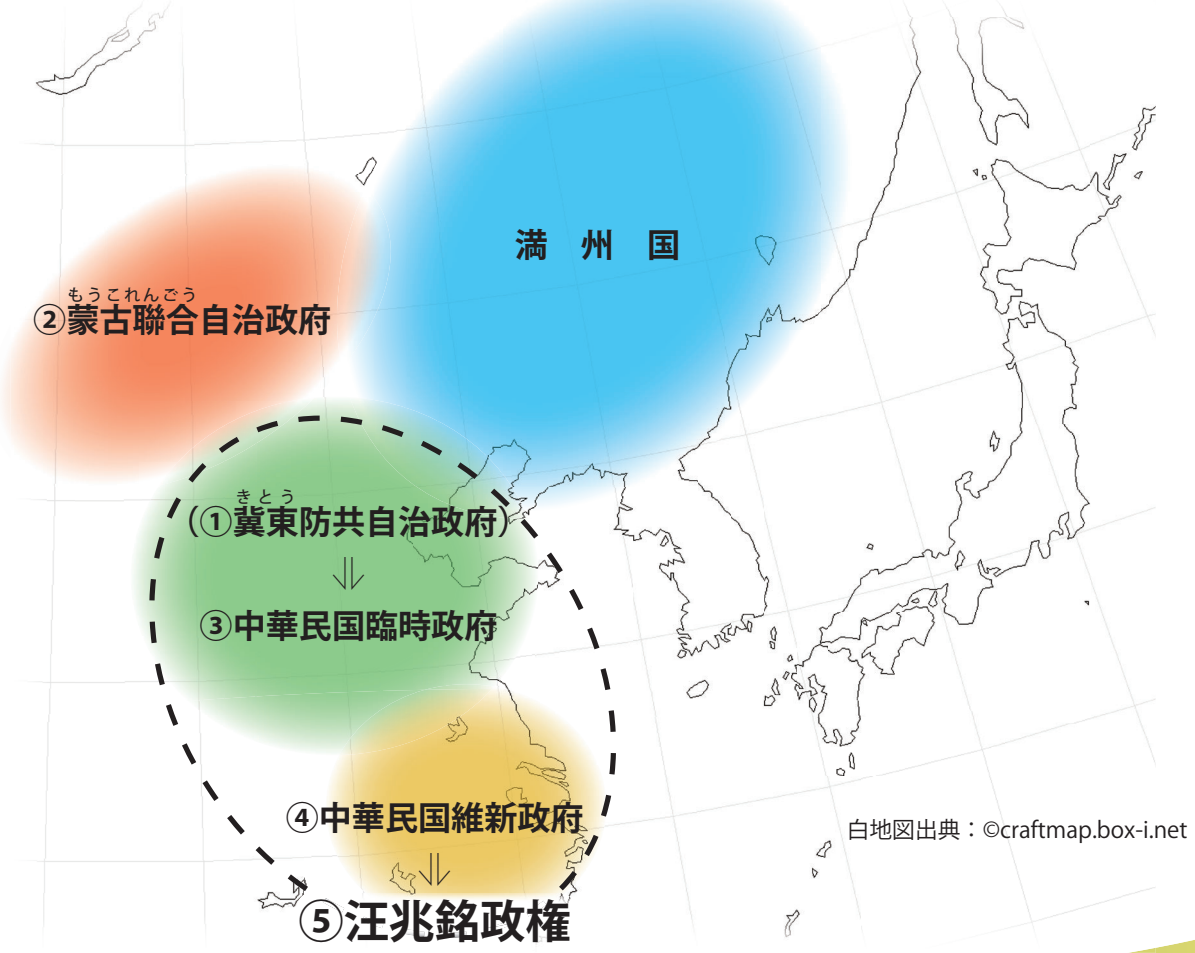
（1）　汪兆銘工作以前

1937（昭和 12）年 12 月，当時の中国国民政府の首都であった南京の攻略に日本国内は戦勝ムードに沸き，軍も民間も積極的な拡大思想が大方を占めていました。しかし，当時の日本の実情は，中国での戦争の長期化に耐えられるほどではなく，さらには抗日運動の激化により占領地でも民心を掌握できませんでした。そのため，陸軍は現実的には，「敵対する蒋介石の国民政府との早期問題解決」を目指していたと考えられます。

しかし，有利な立場での幕引きを狙った日本の思惑どおりには進みませんでした。そこで，日本は，かろうじて得た占領地で，内戦などで失脚した中国人政治家らを利用し中国国内に傀儡（かいらい）政権を成立させました。その中で日本の発言力を確保し，占領地の経営・開発は中国人に行わせつつ既得権を確保しようとしたのです。

また，傀儡政権があるところでは経済謀略が行われました。傀儡政権が勢力を確立するためには，独自の貨幣を発行し他の勢力を経済面から駆逐するという謀略は常套手段でした。

まずは，日本軍が擁立した主な傀儡政権と発行された通貨を概観していきましょう。



満州国建国以降に行われた日本の工作，擁立された主な傀儡政権とそこで発行された通貨

①華北分離工作

満州国建国後，日本陸軍は，隣接する，鉄などの資源が豊富な華北に勢力を拡大しました。1935 年には関東軍司令部付 奉天特務機関長 土肥原賢二を中心として，北平（現在の北京）や天津を含む河北省，青島を含む山東省など 5 つの省を蒋介石国民政府から分離させ「第二の満州国」をめざして「**冀東防共自治政府**」（のちに「冀東自治政府」と改称）に統治させようとしました。しかし，この政府はわずかな地域を統治したのみで，後年，中華民国臨時政府に合流しました。

②蒙古聯合自治政府

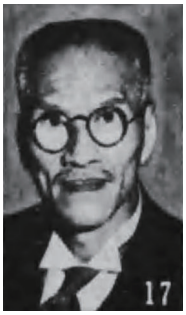
駐屯する日本軍により 1937 年に南モンゴルに設立されました。首府は張家口。首班はデムチュクドンロプ（徳王），「蒙彊銀行券」を発行しました。

③中華民国臨時政府（のちの）華北政務委員会―北平（北京）

1937 年に北平（現 北京）を占領した陸軍は天津を含めた周辺地域を統治する「中華民国臨時政府」を傀儡政権として設置，首班には，北伐で蒋介石に敗れ隠棲していた王克敏を担ぎました。

当初，日本軍は華北で植民地の通貨である朝鮮銀行券を軍票として使用しましたが，戦時インフレを進行させないよう中国で通貨を発行するため「中国聯合準備銀行」を設立し，「中国聯合準備銀行券」（聯銀券）を物資調達に使用しました。しかし奥地での調達には蒋介石政府の法幣しか使用できず，流通は極めて限定的でした。

汪兆銘政権に統合後も「華北政務委員会」と改称され存続。日本軍の力で制圧できていた華北は特殊性が尊重されたため，汪政権にとって障害になりました。



王克敏
出典：
『最新支那要人伝』

「中国聯合準備銀行券」（聯銀券）
（当館所蔵）

④中華民国維新政府―南京

1938 年，梁鴻志を行政委員長として担ぎ，成立させました。英米資本や民族資本が集中する上海を含む華中は，日本が軍の力で制圧できていた華北とは比較にならないほど抗日意識が熾烈で，民衆への影響力はほぼ皆無でした。のちに汪兆銘政権に吸収されました。

中央銀行とは性質が異なるものの，「華興商業銀行」を設立，兌換券である「華興商業銀行券」（華興券）を発行しました。

⑤汪兆銘政権―南京

蒋介石国民党重慶政府から脱出させた汪兆銘に，参謀本部 影佐禎昭の「影佐機関」（別名「梅機関」）の工作により南京に国民政府として「還都」させ，1940 年に打ち立てたのが汪兆銘政権です。影佐らはこの勢力を確固たるものとするために南京・上海・杭州周辺では「清郷工作」を行いました。

経済面では，「中央儲備銀行」を設立し，法幣を駆逐できるよう「中央儲備銀行券」（儲備券）を発行しますが，信用を得ることは困難でした。

汪兆銘
出典：
『最新支那要人伝』

「中央儲備銀行券」（儲備券）
（当館所蔵）

（2）　影佐機関（別名「梅機関」）が行った謀略

中華民国成立直後，汪兆銘は中華民国建国の父・孫文の側近として活躍しましたが，日中全面戦争の頃には孫文が結党した中国国民党は蒋介石が主導していました。その蒋介石政権ではナンバー２の地位にあった汪兆銘を担ぎ出し政権を打ち立てさせたのが，参謀本部の影佐禎昭が指揮する影佐機関でした。

①　影佐禎昭の人物像

影佐は頭脳明晰，中国通として有名で，1937（昭和 12）年に設置された参謀本部第二部第八課（謀略課）の初代課長を務めました。

年　月　日	
1893(明治 26) 年　3 月 7 日	旧浅野藩士 (広島) の家系に生まれる
1914(大正　3) 年　5 月	陸軍士官学校卒業（第 26 期）
1923(大正 12) 年 11 月	陸軍大学校 , 優等で卒業（第 35 期）
1924(大正 13) 年 12 月	参謀本部付 (作戦課) 勤務
1925(大正 14) 年　4 月～	陸軍派遣学生として東京帝国大学政治学科聴講 (3 年間)
1929(昭和　4) 年　3 月～	参謀本部付中国研究員として中国各地に駐在 (3 年間)
1937(昭和 12) 年 11 月	参謀本部第二部第八課（謀略課）設置，初代課長に就任 (当時大佐)
1938(昭和 13) 年　6 月	陸軍省軍務局軍務課長に就任
1939(昭和 14) 年　3 月	汪兆銘工作開始
同　年　8 月	少将に進級，影佐機関 (別名「梅機関」) 設立
1940(昭和 15) 年 11 月	汪兆銘政権最高軍事顧問就任
1942(昭和 17) 年　5 月	軍事顧問解任，戦地を転々と移動
1943(昭和 18) 年　6 月	第 38 師団長 (南太平洋ニューブリテン島ラバウル)
1946(昭和 21) 年　5 月	復員
1948(昭和 23) 年　9 月 10 日	戦病死，享年 55 歳

参謀本部第二部第八課発足時の陣容
大佐 影佐禎昭…汪兆銘工作首謀者
中佐 唐川安夫
中佐 岩畔豪雄…偽造法幣工作発案者
中佐 臼井茂樹…桐工作 (対重慶工作) 首謀者

汪政権成立後は政権の最高軍事顧問に就任しました。しかし，当時の首相兼陸軍大臣 東条英機からは「影佐は中国に対して寛大すぎる」として，政権顧問から外され，1943（昭和 18）年には南太平洋のニューブリテン島ラバウル戦線に左遷されました。

ラバウルでは影佐機関での事がらを含む中国大陸での活動の回想を手記『曾走路我記』に記しています。それによれば，自身は日中関係研究のため派遣された中国北部で，深刻に感じた中国での排日思想の広まりに憮然とし，強硬策から現実路線へ転換したことを示唆しています .

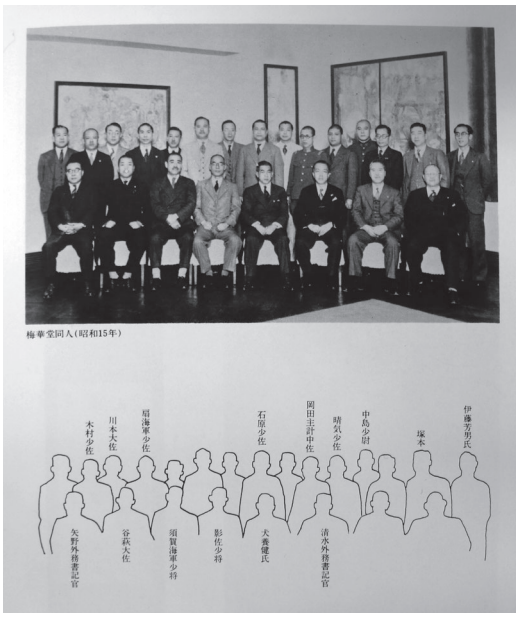
なお，陸軍士官学校 26 期は，参謀本部第二部第八課（謀略課）初代課長 影佐禎昭，登戸研究所長 篠田鐐，中野学校初代校長 秋草俊と，それぞれが秘密戦の作戦考案・兵器開発・人材育成という秘密戦実行のための重要機関のトップ経験者を輩出しています。

②　影佐機関（別名「梅機関」）とは

参謀本部 影佐禎昭を中心として，汪兆銘政権成立のため上海を拠点として活動した謀略機関です。別名を「梅機関」と呼ばれたのは本拠地「梅華堂（ばいかどう）」の頭文字をとったものです。上海は中国随一の巨大国際都市で，当時から諸外国が統治する租界があったため各国による国際的な諜報活動が展開され，謀略拠点とする利点がありました。

影佐機関は，もとは，参謀本部 土肥原賢二が上海で旧軍閥の呉佩孚（ごはいふ）らによる傀儡政府を成立させようと工作を行っていた特務機関，土肥原機関（別名「重光堂」）が失敗し，その残務処理を引き継いだものでした。1938 年末に汪兆銘を重慶政府から脱出させ，政権成立工作の仕上げのため，政府直轄機関として上海に梅機関が開設されたのは 1939（昭和 14）年 8 月のことでした。

汪兆銘政権が成立した後は，影佐を最高顧問とした軍事顧問団を形成し，汪兆銘政権の地盤固めと勢力拡大のため，多方面にわたり工作を行いました。



昭和 15 年当時の影佐機関員ら
（塚本誠『或る情報将校の記録』口絵より，
塚本英史氏提供）
梅華堂とは梅機関のことであり，影佐機関を指す。

影佐機関（梅機関）の主な構成員

陸　軍　（　参　謀　本　部　）

機関長：影佐禎昭少将　　石原幸次少佐

谷萩那華雄（やはぎなかお）大佐　　大村主計少佐

土肥原機関から特務工作の引継ぎ

晴気慶胤（はるけよしたね）中佐　　塚本誠少佐

川本芳太郎大佐

堀場一雄中佐（のち桐工作[1]に関与）

海　軍

須賀彦次郎大佐

扇一登（おおぎかずと）少佐

外　務　省

矢野征（せいき）記書記官

清水董三（とうぞう）書記官

民　間

犬養健（いぬかいたける）衆議院議員

興　亜　院[2]　官　僚

新　聞　関　係　者

松本重治（同盟通信）

神尾茂，太田宇之助（朝日新聞）

梅機関の汪兆銘に対する方針：①密接なる連絡　②絶対的不干渉　③徹底的援助

(1) 水面下で，直接，重慶の蒋介石政権との和平交渉を行おうとした工作。

(2) 日中戦争の拡大に対応して対中政策の統一を図るために内閣に設置された機関。

③　影佐機関が行った謀略

影佐が行った初期の謀略は，参謀本部第二部第八課（謀略課）の設立と，影佐の初代課長就任まで遡ります。参謀本部第二部第八課は，1937（昭和 12）年 11 月，日中全面戦争の早期解決を図るため必要に迫られて設置されました。しかし，本丸である蒋介石政権との交渉は日本が思うようには進まず，日本政府は 1938（昭和 13）年 1 月「爾後，国民政府を対手（あいて）とせず」と蒋介石政権の否認を宣言した第一次近衛声明を発します。これにより蒋介石政権との交渉は表向きできなくなりました。

そこで，影佐は，蒋介石政権内にいた汪兆銘を和平交渉の相手として担ぎ出す工作を画策するのです。それ以来，影佐は汪兆銘政権の安定を目指し，主に次のような謀略を展開しました。

④　『周仏海日記』から読み解く汪兆銘政権と影佐機関

日本の参謀本部の謀略を検証するうえで，今回は汪兆銘政権側の有力者の日記である『周仏海日記』（みすず書房，1992 年）を取り上げます。

汪兆銘の側近であり，汪政権で財政部長，警政部長などを務めた周仏海（1897- 1948）は，1937（昭和 12）年 7 月 1 日から 1945（昭和 20）年 6 月 9 日までほぼ毎日日記を残しました。そのため，彼の日記からは，中国人側で傀儡政権の「カネ」と「警察権力」を握った人物の目を通して汪政権の実態を読み取ることができます。

周仏海　（出典：『写真週報』110 号 昭和 15 年 4 月 3 日号）
汪兆銘政権の実質ナンバー 2。京都帝大への留学経験もある。中国共産党→中国国民党と経て，汪兆銘と共に重慶を脱出。影佐機関員らとも深く交わった。

残念なことに，影佐機関による汪政権成立工作が始まった 1939 年の巻が所在不明のため初期の工作内容は不明ですが，政権成立までの「梅機関員」との日常的な接触や，汪政権の中央銀行「中央儲備銀行」の設立とその内実などが当事者の視点から書かれています。

周の次男 周幼海によれば，周は自身の「高潔さ」の誇示のために日記を記していたため，中には事実もあれば意図的に隠されたことがらもあります。ですが，この日記は当時の影佐機関の働きや，この空疎な傀儡政権の実態を伝えています。

汪兆銘政権成立以前の工作①　「梅機関」以前の工作

1937 年，第二次上海事変のさなか，蒋介石の国民政府の中にも日本との和平を積極的に探るグループが存在していました。

周仏海もそのうちの一人で，この頃は蒋介石の党・政府・軍の権力の支配機構「侍従室」の一員でした。周は，その立場にあって，まずは戦争状態を終結し，その後外交で決着させることを，国民政府ナンバー 2 であった汪兆銘を通じ蒋介石に提案しています。

周仏海日記	
1937 年 8 月 30 日	…〔陶〕希聖 (1) と伴に汪先生のところに行き，戦時は適当な時点で切り上げ，目下は外交を開始すべきとの理由を力説し，… 汪先生は蒋先生を極力説得することを承知された。帰宅後，適之 (2)，〔高〕宗武 (3) と共に対日外交の段取り及び要点など具体策を検討し，宗武が起草することになった。… 希聖と内容を検討し，若干手を加える。 (1) 当時，北京大学教授。重慶を脱出した汪兆銘，周仏海とともに昆明からハノイへ脱出。 (2) 胡適。当時，北京大学文学院院長。 (3) 当時，国民政府外交官。日本との秘密交渉の窓口となった。翌年 2 月に「日本問題研究所」という情報機関を設置，日本の民間エージェントと接触，6 月に影佐らに面会する。
同年 8 月 31 日	… 我々の提案した外交進行方式は蒋先生に採用されなかった …

※〔 〕内は資料館補足（以下同じ）

ですが，この提案は却下されました。というのも，蒋介石政権側にとって，全面戦争終結のための日本の要求は高く，激しさを増していた抗日運動も背景に，とうてい受け入れがたいものであったためです。

それでもなお，周らは一刻も早い戦争の終結を望み，蒋介石と意見が対立していました。

周仏海日記	
1937 年 10 月 3 日	… 余は，一日でも早く和平することが中国にとってより多くの利益をもたらすとして，直ちに米，独に調停依頼を要請すべきことを主張 …

日本は 1938（昭和 13）年 1 月の「国民政府を対手（あいて）とせず」の近衛声明が象徴するように強硬姿勢のまま日中全面戦争を展開します。とはいえ，日本にとっても日中全面戦争の長期化は望ましくはありませんでした。

その直後，事態が動きます。同年 6 月，周仏海らと行動をともにしていた和平派の高宗武（こうそうぶ）らが，影佐と接触します。日本側（影佐）も，彼らのような蒋介石政権内の和平論者とは戦争の長期化を避けたい思惑が合致したのです。そのために影佐は「対手とせず」とした蒋介石と和平交渉は行わない代わりに，傀儡政権を交渉相手として打ち立てる必要がありました。

こうして，日本が利権を手放すことなく戦争を終結させるための謀略の構想が固まっていきました。

汪兆銘政権成立以前の工作②　重光堂会談と汪兆銘の重慶脱出

首都 南京が日本によって陥落した後，蒋介石の国民政府は重慶に政府を移転していました（重慶政府）。汪兆銘が日本とともに政権を成立させるには，重慶から脱出する必要がありました。そのため，それに先立つ 1938 年 11 月 20 日，上海の「重光堂」（土肥原機関）で汪兆銘側代表の高宗武・梅思平（ばいしへい）と，日本側の影佐らで会見をします（「重光堂会談」）。この際に「日華協議記録」が調印され，この中で「日支新関係調整方針」を日本政府，汪兆銘が互いに同意した場合は汪兆銘は重慶を脱出することが決定されます。

重光堂会談（1938 年 11 月 20 日）@ 上海・重光堂（土肥原機関）　（身分は当時）

日本側　代表
（参謀本部）

影佐禎昭大佐
今井武夫中佐 (1)

日華協議記録　調印事項

日本の「防共」駐屯承認
中国による満州国承認
汪兆銘の蒋介石との絶縁
東亜新秩序のため汪兆銘による新政府樹立

汪兆銘側　代表

高宗武
梅思平 (2)

(1) 当時，参謀本部第二部第七課 (支那課) 支那班長。のちの対重慶和平工作である「桐工作」の中心人物のひとり。
(2) 当時，国民政府大本営第二部 (政略) 秘書。高宗武の肺病治療のため日本との秘密交渉窓口を引きついだ。

周仏海日記	
1938 年 11 月 21 日	… 関わっている事 (1) に幾分か目鼻がついたが，変化があるかどうかは予測できない。… (1) 重光堂会談で日本側の条件を受け入れ，汪兆銘らが重慶を離脱し，偽の政権を成立させ，汪兆銘が蔣介石にとって代わり日中の「和平」を実現すること。

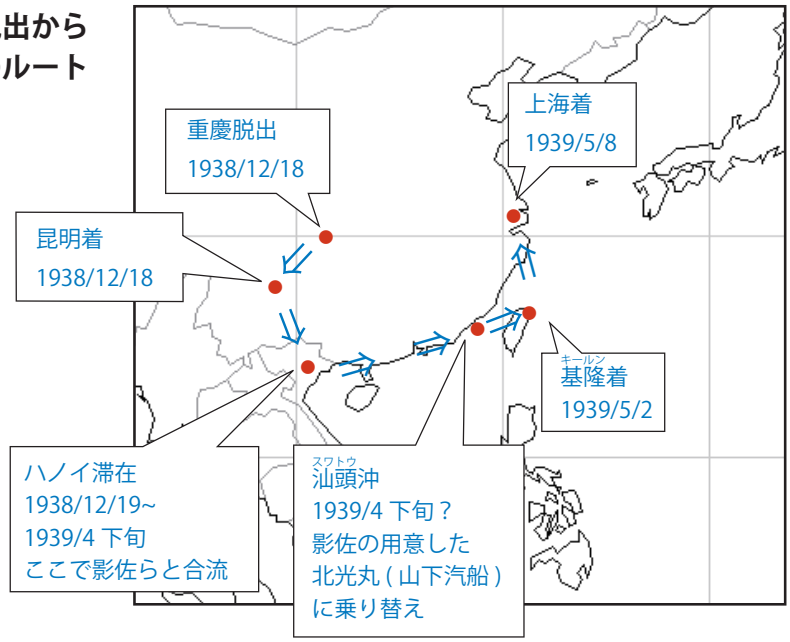
周仏海日記によれば高宗武は周仏海と重光堂会談の直前に頻繁に会っており，周もこの交渉における汪兆銘グループ側の方針を定めるのに関わっていたことが示唆されています。

その約 1 か月後，汪兆銘は重慶を脱出，12 月 18 日に昆明（クンミン）で周仏海，陶希聖（とうきせい）と合流し，そして翌日にフランス領インドシナ（現 ベトナム）のハノイへ向け出国します。

周仏海日記	
1938 年 12 月 19 日	… 九時に戻ると，〔陶〕希聖がすでに来ており，一緒に汪先生を拝謁し，午後二時にハノイ行の飛行機をチャーターできるとのこと。飛行機なら早いが危険が伴う。列車だと安全だが二日は待たねばならぬ。… 結局冒険でも飛行機に乗ることに決めた。そこで希兄〔陶希聖〕とそれぞれ宿舎に戻り，旅装を整えた。… 三時十五分に離陸する。… 一時間ほどでベトナム〔ママ〕領に入り，安全になったことを知る。五時半に〔ハノイに〕到着する。… これで現状を脱したのである。

その後の，ハノイでは秘書の曽仲鳴（そうちゅうめい）が身代わりとして射殺されるなど，汪兆銘にとって命の危険がありました。汪をハノイから安全に脱出させるため，1939（昭和 14）年 4 月，日本側から影佐，犬養などのちの梅機関員となるメンバーが派遣されました。5 月には，日本が汪を保護することができる，共同租界のある上海へと移動しました。そこで梅機関を発足させ，汪兆銘政権を成立させるための謀略活動を開始しました。

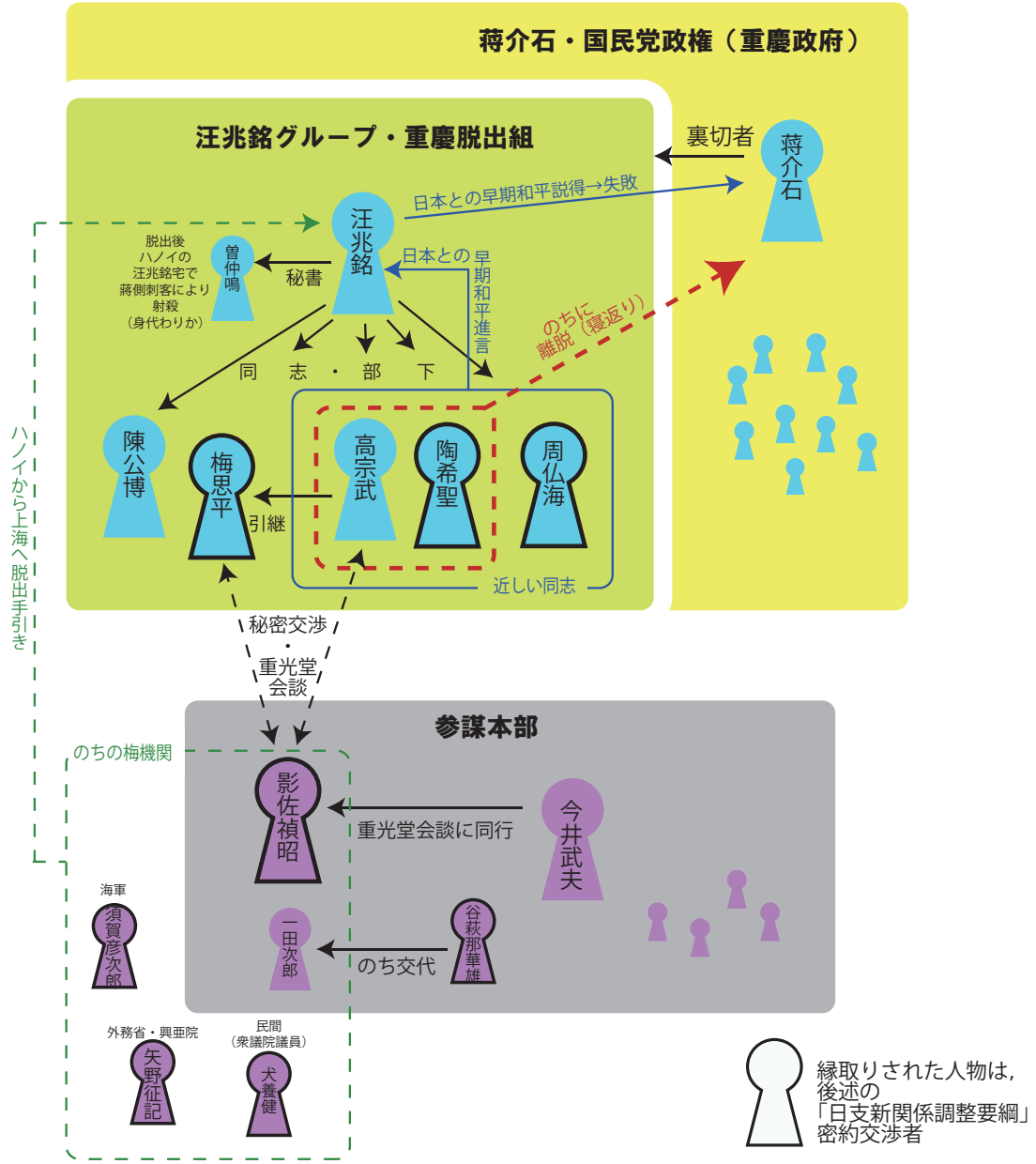
汪兆銘の重慶脱出から上海入りまでのルート



参考：
『周仏海日記』，
影佐禎昭「曾走路我記」，
犬養健『揚子江は今日も流れている』
など

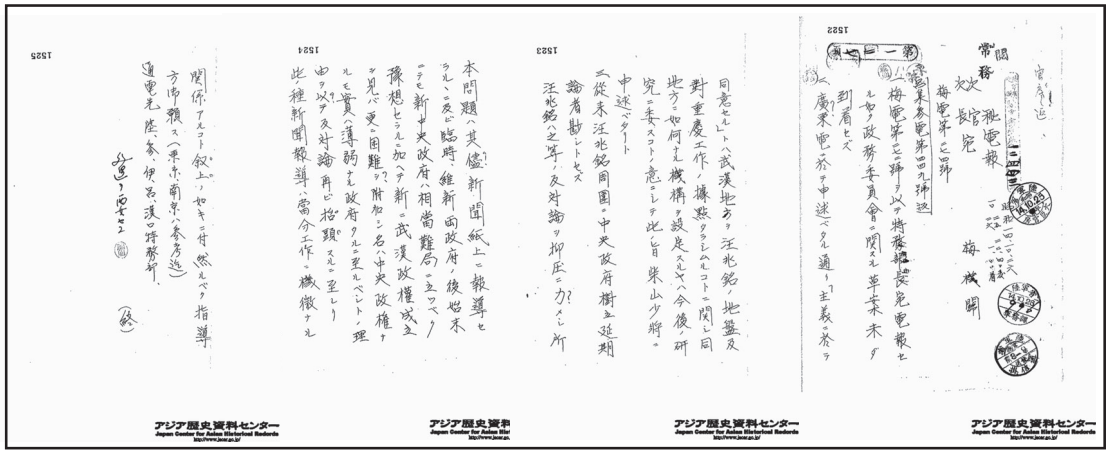
白地図出典：©craftmap.box-i.net

なお，梅機関設立前の情況を人物相関図として整理すると次の図のようになります。



汪兆銘政権成立前の工作の状況について，梅機関から参謀本部宛てに送られた秘電報

「昭和 14 年 10 月 26 日新中央政府樹立運動に関する件」（防衛省防衛研究所戦史研究センター所蔵）
アジア歴史資料センター公開 C04121519700。「梅機関」から陸軍省，参謀本部や在中国特務機関などに工作に関する情況を伝えている。

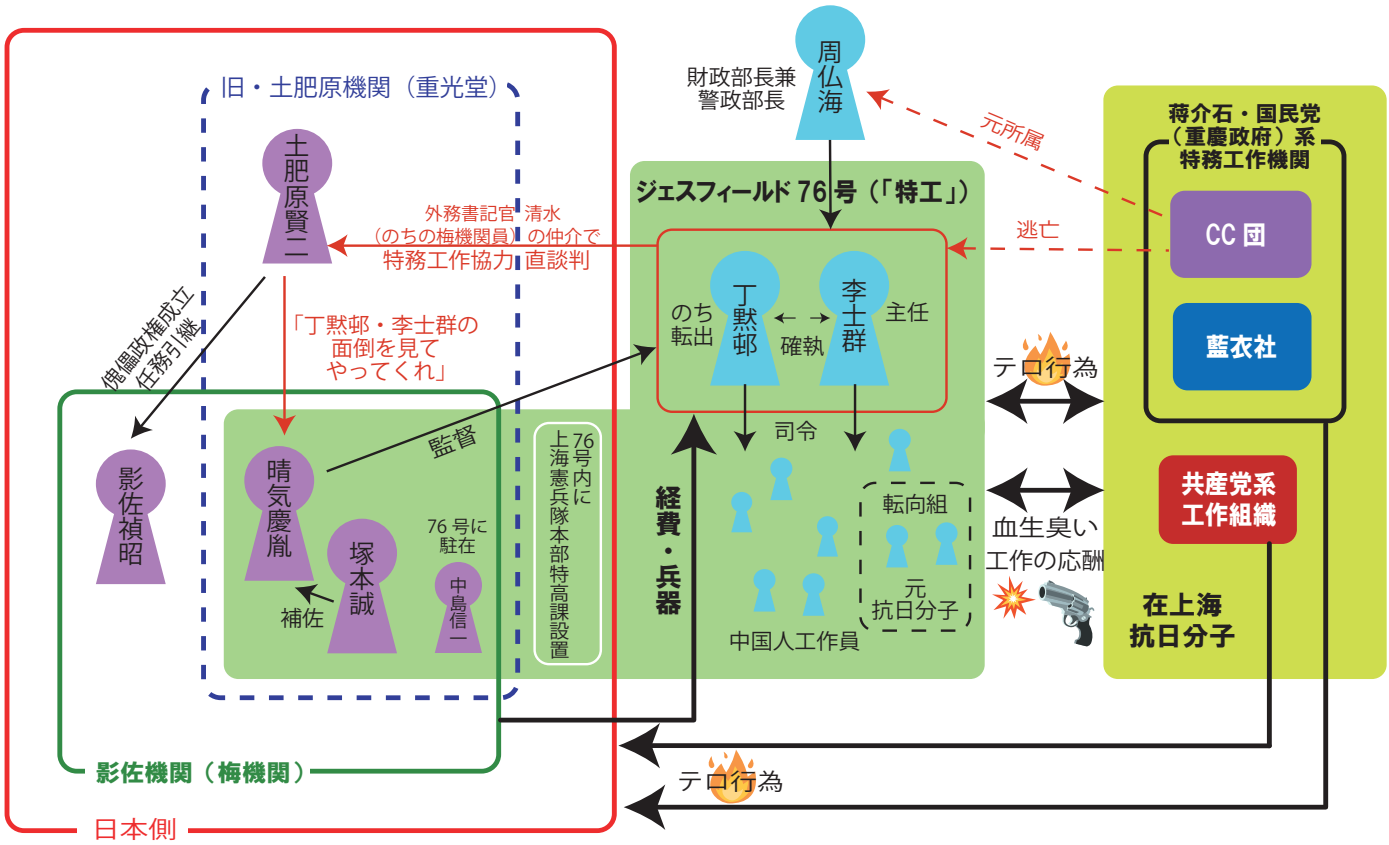


「梅機関」による主な工作①　特務工作機関「ジェスフィールド 76 号」

1939 年 3 月，梅機関は政権の安定化を図るための特務工作機関「ジェスフィールド 76 号」を上海に設置します。機関名はジェスフィールド通りの住所に由来し，存在は秘匿されました。上海では重慶政府から離反した汪一派への反感も大きく抗日テロが頻発していました。そこで，テロにはテロで対抗しました。具体的には，敵対する工作員を転向させ味方に引き入れ，さらにそのノウハウを入手，転向が見込まれない場合は処刑するなどしました。しかしそのテロ合戦は一般市民からも「泣く子もだまる 76 号」と嫌悪される一因にもなりました。

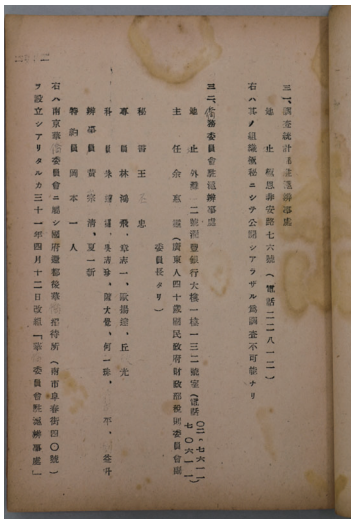
この機関の資金・武器は日本から提供されていました。このことは，第一章 (2) で触れた登戸研究所の規模拡大と伴繁雄の上海出張（爆破・殺傷用謀略兵器実演）とも関係します。

汪政権成立後は「特工総部」（別名「特工」）という正式機関となり，この組織の主任が，後述する「清郷工作」現場責任者となったことから政権内の権力争い激化と腐敗が進みました。



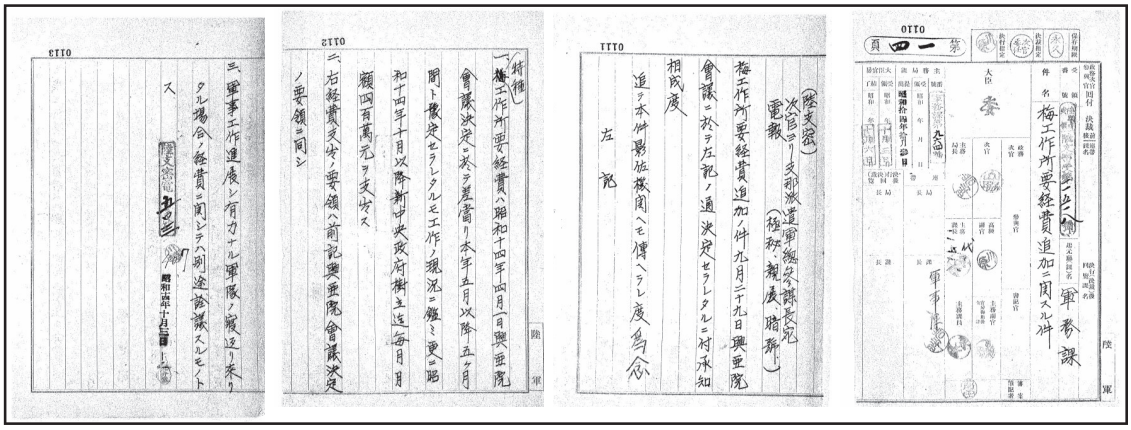
周仏海日記	
1940 年 1 月 12 日	晴気及び塚本が来て，特工拡大計画を陳述し … 必需経費の拡大を求める。このために財源を準備する必要があり，一番良いのが阿片税で充当することである。ただ特工人員が特税を行うのは好ましくはなく，一つには腐敗の恐れ，一つには実力と財力のいずれも特工人員が握ることになると将来権力が増大し操縦が難しくなるので，余が別に幹部を組織して処理することを望む。…〔結局は別組織にならなかった。〕
1941 年 5 月 25 日	〔丁〕黙邨，〔李〕士群の摩擦は … ますます激化 … いずれも職務の去就を以てどちらも影佐の支持を取りつけようとしており，影佐も対応に苦慮しているとのこと。…

特務工作機関「ジェスフィールド 76 号」に関する資料

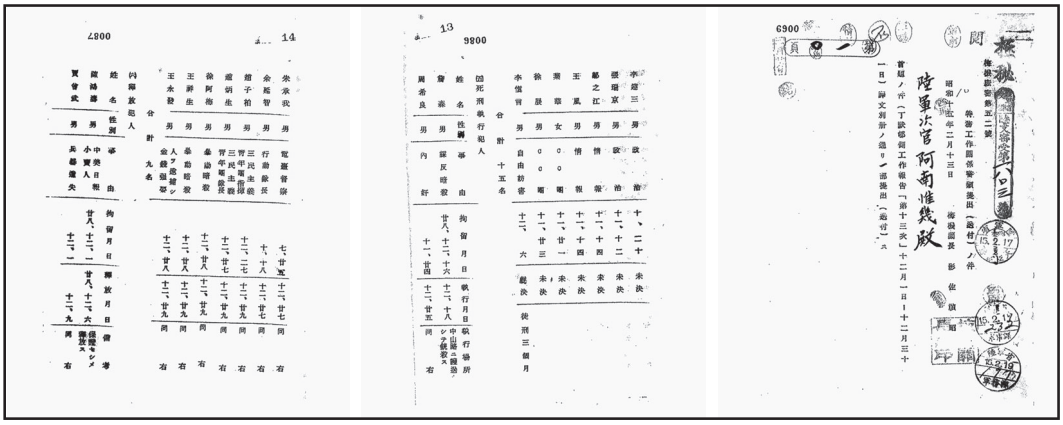


ジェスフィールド 76 号が「極秘」組織であったことを示す資料
（上海市政研究会『昭和 17 年 9 月 30 日上海共同租界内行政権に関する諮問事項答申書添附調査報告書（其ノ一）』，狛江市教委員会所蔵）
「極恩非安路」でジェスフィールド（ロード）と読む。「右は其の組織極秘にして公開しあらざる為調査不可能なり」。

昭和 14 年当時の特工機関員と梅機関員（塚本誠『或る情報将校の記録』口絵より，塚本英史氏提供）
前列左から，
川本（芳太郎）大佐，李士群，丁黙邨，影佐（禎昭）少将，
後列左から，
塚本（誠，少佐），晴気（慶胤）少佐。



「昭和 14 年 10 月 3 日
梅工作所要経費追送に関する件
（防衛省防衛研究所
戦史研究センター所蔵）
アジア歴史資料センター公開
C04121431800。
「梅工作」の「特種」工作経費として
新中央政府（汪兆銘政権）
樹立まで月額 400 万元の支給が
興亜院会議で決定された。



「昭和 15 年 2 月 13 日
特務工作関係
書類提出（送付）の件（1）」
表紙，18，19 頁
（防衛省防衛研究所
戦史研究センター所蔵）
アジア歴史資料センター公開
C04121869900。
影佐が阿南陸軍次官に宛てた
抗日敵性分子処分の月次報告。
1940（昭和 15）年 12 月の
丁黙邨らによる特務工作として
「死刑執行犯人」が合計 9 人で
あったとある。

「梅機関」による主な工作②　「日支新関係調整要綱」合意の密約

1939 年の日記が所在不明のため梅機関と汪グループがはじめて接触した時期や梅機関の活動の経過がわかる日々については残っていません。ですが，1940 年 1 月 2 日の日記に，梅機関長としての影佐と梅機関員がはじめて登場します。汪兆銘政権成立の約 2 か月前です。

周仏海日記	
1940 年 1 月 2 日	… 午後，汪先生のお供をして影佐を接見し，日本当局と汪先生との間で連合宣言を発表するか，あるいは同時にそれぞれ発表し，互いに呼応する形をとるかどうか協議する[(1)]。… またわが方はその時に日本が要人を上海に派遣してくれるよう要望するが，影佐は東京と連絡を取って協議するよう努めると述べる。… (1) 汪兆銘側と梅機関が秘かに前年 12 月 30 日に合意した「日支新関係調整要綱」に基づくもので，この要綱は 7 回の公式協議会と非公式会議を経て決定。協議会は汪側からは周仏海，梅思平，陶希聖，周隆庠，（5 回目以降より）林柏生が出席。梅機関側からは影佐，谷萩（陸軍），須賀，扇（海軍），矢野，清水（外務省），犬養（衆議院議員）らの 6 ～ 9 名が毎回出席した。

この日記に先立つ 1939 年 12 月 30 日，汪兆銘グループの幹部と梅機関の密談により，汪兆銘政権を日本の傀儡政権として成立させたうえで，汪政権を正式に中国政府を代表する交渉相手とする方針が盛り込まれた「日支新関係調整要綱」が合意に至りました。しかし，この内容は中国にとっては大変不利なものでした。そのため，この密約交渉の汪政権側当事者のひとりであった陶希聖と，早い時期から影佐と接触していた高宗武の二人が，一転，汪兆銘グループから離脱，日本側からの過酷な条件を批判し，交渉の内実を香港のメディアに暴露するのは，1940 年 1 月下旬のことでした。

「日支新関係調整要綱」の中身

中国による満州国の承認
防共地帯（華北）における日本軍の駐屯地域での日本によるインフラ監督権留保
華北・満蒙資源の共同開発にかかる日本への便宜供与
汪兆銘政権の中央銀行設立・新通貨発行などへの日本側からの援助
汪兆銘政権への日本人顧問の招致採用
事変中における中国本土での日本国民への損害補償（賠償）の要求　など

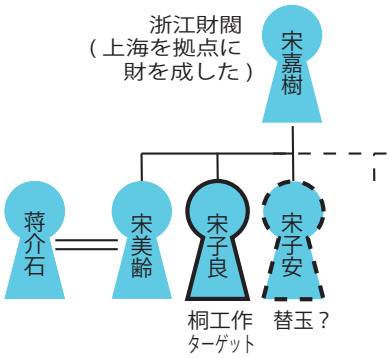
汪兆銘政権の成立と「梅機関」の表向きの解散

1940 年 3 月 30 日，汪兆銘政権が南京で成立しました。使命を達成したと同時に梅機関は上海を引き払います。「還都」した南京へ移転し，「国民政府〔= 汪兆銘政府〕最高軍事顧問部」として活動を継続します。梅機関員だった者のうち，影佐は政権の「最高軍事顧問」となり，同じく軍事顧問となった谷萩，晴気，塚本とともに引き続き謀略を進めます。

桐工作への協力

実は，汪政権工作と並行して，日本政府が「対手とせず」と声明を発したはずの蒋介石の重慶政府側とも水面下での直接交渉が行われていました。

影佐とともに 1938 年の重光堂会談を行った今井武夫（桐工作実行時は支那派遣軍総司令部第二課兼第四課長）と，参謀本部第二部第八課長（謀略課長）臼井茂樹（影佐の元部下）らが，汪政権成立に前後する 1940 年春頃から，蒋介石の義弟 宋子良（と思しき人物）に対し重慶政府との直接和平を目指す「桐工作」を行っており，梅機関も協力しました。日本側はこの工作で支那派遣軍総参謀長 板垣征四郎と蒋介石とを秘密裏で直接会談をさせ，戦争終結させることを期待していました。もしそれを達成できるならば，蒋政権に代わる相手，すなわち汪政権は不要となります。そのため，桐工作の完全な失敗がわかるまで，日本は汪政権の承認を引き延ばしました。



周仏海日記には，重慶政府に意図を見透かされた日本が，期待を持たされつつ，できるだけ交渉を先延ばしにされ，翻弄される様子が記録されています。

周仏海日記	
1940 年 3 月 25 日	… 影佐が来て，重慶に対する工作及び将来の全般的趨勢（すうせい）について話し合う。…
同 6 月 14 日	… 晩，今井大佐と対重慶工作について話し，三回にわたって香港で宋子良と交渉した経過を詳しく聞く。この事について余は最初から実現しそうにないと判っていたが，… 彼も以前より自信を失ったようであった。宋らの行動が蔣の命令あるいは同意を得たものなのかどうか疑問であるが，… 大まかに言えば和平は〔蔣の〕その意とするところになく，これでもってわが政府を破壊したいというのが実際の気持ちであろう。そこで今井に，日本側が注意するよう告げる。…
同 6 月 26 日	… 帰宅すると，臼井，犬養〔梅機関員〕がすでに長いこと待っており，板垣と蔣との会談のことを協議する。余は注意すべき点を詳細に述べ，危険を承知でいくことを表明 …
同 8 月 20 日	… 余は宋子良の真偽を問い質すと，彼〔臼井〕はおそらく宋子安〔子良の実弟〕が交渉に出ているのだろうと言う [1]。数ヵ月にもなる相手の真偽がまだ定かでないとは，まったくお笑い草なり。… (1) 替え玉とされる人物には諸説あり。
同 11 月 23 日	… この一年来，日本側の中国情勢についての認識の不正確なこと，情報も常に誤っていることを深く思わざるを得ない。…
同 11 月 24 日	… 松岡〔洋右，当時 外相〕は，… もし重慶側がはっきりと和平すると表明したなら，直ちに汪先生と調印〔≒汪兆銘政権承認〕延期を協議するという。余はもし本当にそうであるなら，… おそらくそれは重慶の引き延ばしの術に嵌まるだけであろう，と言った。
同 11 月 28 日	… 犬養からは東京は三十日調印を確定した，との電話があり，これで重慶和平の説が事実でないことが証明されたといえよう。…

⑤　清郷工作

汪兆銘政権成立後，その勢力圏の治安維持・経営のための謀略が「清郷工作」です。

汪政権の勢力範囲は上海・南京など限定的でしたが，その周辺の肥沃な揚子江河口域南岸地域は税収のドル箱と言え，汪政権は「完全な自主独立の基盤」として「清郷工作」を展開しようとしました。しかしこのあたりは中国国内でも特に裕福で有力な浙江財閥など蒋介石支持層の地盤であり，また共産党も農村を中心に勢力を伸ばしていた敵性地区でもあったため抗日感情が特に強い地域でした。当然，そこでも汪政権に対する人民からの信用は低く，汪政権，国民党系軍，共産党系軍（新四軍）との三つ巴で激しく争いました。そのため，もともと財政困難な汪政権は日本に経済的にも軍事的にも頼らざるを得ず，実態は日本による占領地経営でした。

しかし実体のない汪政権にとって支配地経営は悲願であり，この工作に大きな期待をかけました。周仏海日記からは，政権の中心とも言えるこの工作への，元梅機関員をはじめとした多くの日本人による関与や，その困難が見てとれます。

理念は素晴らしいように見えますが，
民衆の抗日感情や汪政権の財政難を鑑みると
到底実現可能なものではありませんでした。

清郷工作大綱

- 民衆に基礎を置く自立体制確立のための日華協力と汪政府の強化
- 工作に専念できる特殊な清郷機構（＝清郷委員会）による政治建設と中国人による自力維持
- 汪主席直接指揮による清郷委員会の設置と現地工作責任者（秘書長）の任命
- 敵性武装団体，組織の総力戦的討伐と妨害防止のための工作地域の封鎖（= 竹矢来の建設），日本軍による敵の集団武力討伐と封鎖戦の維持防衛
- 敵〔反汪政権，抗日勢力〕を掃討後の民衆による自衛と警察による治安維持
- 民衆生活の向上を至上目的とした強力な保護経済政策による民心の把握

周仏海日記	
1941 年 4 月 11 日	…晴気中佐が清郷問題で来訪。…午後，谷萩大佐が来訪[1]し，国民政府の強化法について軍事，外交，政治，金融のそれぞれの角度から提案するが，採用すべき点が多い。… (1) 晴気も谷萩も元梅機関員。特に晴気は清郷工作の日本側現場責任者。
同 5 月 8 日	…〔李〕士群が清郷委員会の工作を報告に来たので，一つ一つ指示を与えた。人事と経費に特に注意を促した。…岡田〔酉次〕大佐〔当時 汪政権経済兼軍事顧問〕が清郷の経費問題を相談に来たので，政府の財政は困難であり，…いつかは破産してしまうと述べた。…

この工作では日本による派遣師団や，汪兆銘が直接指導した「清郷委員会」が治安維持に努め，抗日分子は取り締まられましたが，人民は面従腹背という状況でした。

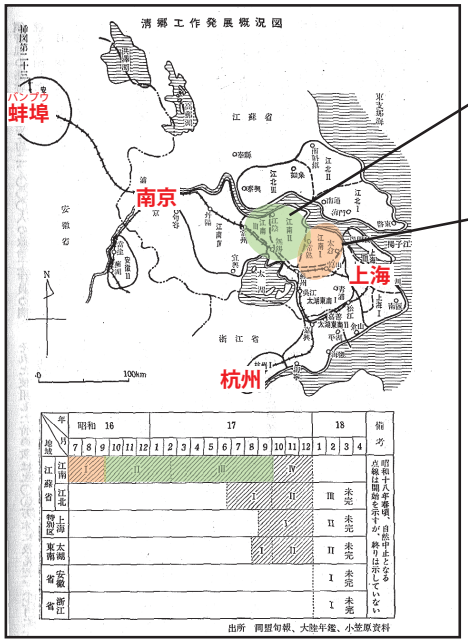
また汪兆銘が直接任命した現場責任者は上海の「特工総部」主任経験者 李士群であり，政権中央から独立した場所で汪兆銘直接指導という名のもと，李は，汪政権中央幹部（特に周仏海）との確執を招きました。こうして「清郷工作」は政権の基盤を揺るがします。

周仏海日記	
同 7 月 31 日	… 彼〔影佐〕が言うには，〔清郷工作をやらせている〕李士群〔清郷委員会秘書長〕の禍は大である。…〔周仏海のやっかみに基づいた記述である可能性あり〕
同 8 月 3 日	…〔李士群に対する〕汪先生の臆病と日本側の庇護がその傲慢ぶりを助長した主な原因である。今，日本側は判ってきたようだが，汪先生は依然として恐がっている。これでは権威を維持できない …

－ 清郷工作概要 －
実施時期：1941 年 7 月～ 1943 年春頃（自然消滅）
対象地域：揚子江南岸地区
責 任 者：（汪政権側）清郷委員会秘書長（李士群，元特工総部主任）
（日本側）第十三軍（別名「登」部隊）参謀長
現場責任者…晴気慶胤中佐，中島信一中尉
（ともに元梅機関員，従来より李士群の監督係）
治安担当：清郷委員会（汪兆銘直属），第十三軍司令部（日本陸軍）
特　　徴：周囲を「竹矢来」で囲い込み，敵性組織の掃討と人民支配を行う
竹矢来総延長：1700km（使用した竹の本数は第一期 130km分だけで約 200 万本）
敵性勢力：忠義旧国軍（重慶側遊撃隊），新四軍第六師（中国共産党軍）ほか

汪兆銘が
直接選任

李士群
出典：『最新支那要人伝』

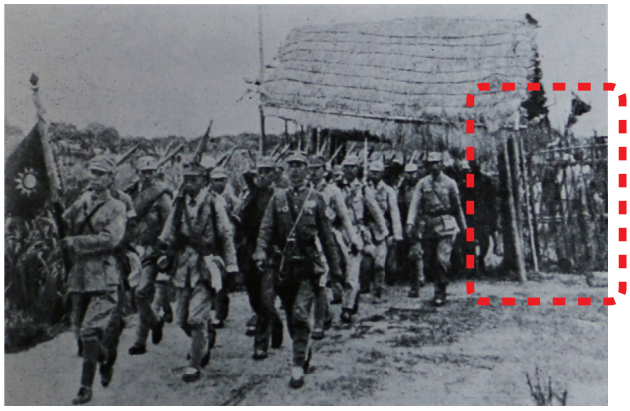


江南地区第二, 三期に工作を行った地区

江南地区第一期に工作を行った常熟－蘇州（含まず）－崑山（含まず）－太倉に囲まれた 1,800 平方キロの地区

そのほかの地区についてはほぼ記録が残っていない

「清郷工作発展概況図」
出典：『戦史叢書　支那事変陸軍作戦 <3>』
資料館加筆



「清郷工作　清郷地区に活躍する保安隊と竹矢来」
出典：『戦史叢書　支那事変陸軍作戦 <3>』口絵
日本国内では工作は成功していると喧伝されていた。竹矢来は中段右端（赤点線枠）に見える。

在北京大使館情報課駐在員 大原実による出張報告では，①掃討を事前に察知した敵兵は封鎖線外に逃亡，または良民に扮装し良民と敵兵との識別困難のため多くの良民が犠牲，②軍隊の力を借りて出動すれば若者や有力者は逃亡，残るのは老人や子供のみ，③単独で清郷工作員が出動すると敵性組織により拉致，または惨殺される状況であったことを示しています。

清郷工作は最終的に自然消滅，占領地の経営もままならない汪政権はますます経済的に追い詰められることとなります。

⑥　中央儲備銀行の設立

汪兆銘政権は独自の通貨「中央儲備銀行券」（儲備券）を発行する「中央儲備銀行」を設立しました。梅機関員らが全面的に支える中，汪政権の財政部長 周仏海（のちに中央儲備銀行総裁）を中心に計画を進め，日本は多額の出資に加え，儲備券自体を日本国内の内閣印刷局（現 国立印刷局）や凸版印刷で製造しました。

なお,「儲備銀行」という名称は,蒋介石が 1937 年に設立予定だった中央銀行の名称として考えられていたものでした。

ここではその裏付けとなる，日本の資金調達や紙幣印刷に関係する記述を周仏海日記から紹介します。

戦後，日本国内で発見された「儲備券用紙綴」背表紙（当館所蔵）実際の綴の中身は偽造法幣用紙の試抄紙と思われる。

周仏海日記	
1940 年 5 月 3 日	… 午後，中央銀行準備員会〔主席 周仏海〕第一回会議を招集し，「中央儲備銀行」と名付け双十節〔10 月 10 日〕に正式に成立させること [1] を決定する。… (1) 中央儲備銀行は実際には翌年 1 月に業務を開始する。
同 5 月 20 日	… 犬養〔健〕[1] が来て，… 東京で中央銀行の資金調達と紙幣印刷の件を進めてもらうよう頼み … (1) 元梅機関員，当時 汪政権経済顧問。
同 7 月 1 日	… 犬養，安藤〔明道〕，久保〔文蔵〕[1] らに来てもらい，法幣〔儲備銀行券〕を製造するうえの各種措置を合同で協議し，図案及び数量を決定し，日本内閣印刷局に印刷の代行を委託することにする。… (1) 安藤と久保は，それぞれ，当時，興亜院経済第三局長と同 経済部第四課長で，中央儲備銀行設立に奔走した。
同 11 月 20 日	… 午後，日銀に行き，総裁の結城〔豊太郎〕氏を訪問する。… 結城は，日本銀行と中央〔儲備〕銀行の間の密接な協力が必要であり，彼も出来る限りの援助をすることを表明した。… その後，内閣印刷局を参観し，中央〔儲備〕銀行の新紙幣印刷のため努力をしているのを目にして大いに感激する。… この印刷局は規模も大きく，仕事もとても複雑であった。…
同 12 月 17 日	行政院会議に出席し，貨幣整理暫行辦法*採択と中央銀行正副総裁及び理幹事の承認を行う。安藤と久保が中央銀行成立に関する中日協力の覚書を携えてやって来る。日高〔信六郎〕[1] と余が調印する。… 一月六日に中央〔儲備〕銀行は正式に業務を開始することを決定した。… (1) もと興亜院経済部長，当時，南京駐在大使館参事官に転任。

＊貨幣整理暫行辦法（べんほう）…「一，中央儲儲備銀行は貨幣の発行，兌換の特権を有し，その名称も「法幣」と称する〔実際は「中央儲備銀行券〔儲備券〕」と称して発行された〕。およそ納税，為替及び一切の公私の往来に，一律に行使し，現行の法幣等の貨幣と流通し，以後次第に取って変わってゆくものとする。二，華興銀行の貨幣発行権は取り消す。三，中央儲備銀行券は特定の地区（= 華北）では暫くの間適用せず，軍票及び聯銀券が現状を維持する。」と明記されていた。

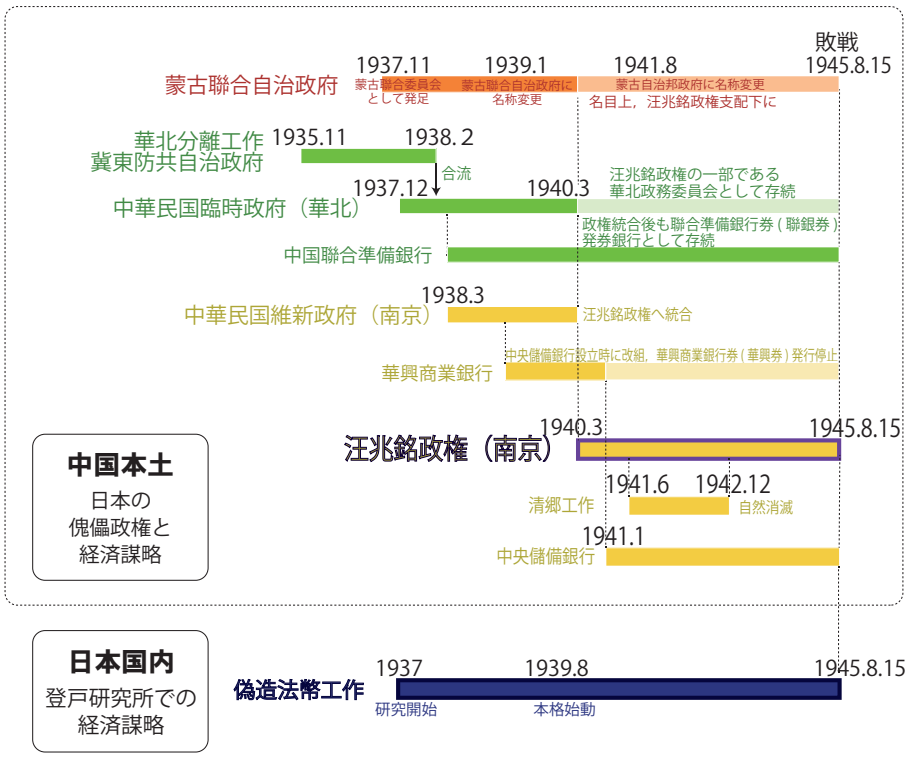
第３章　謀略最後の切り札 - 偽札工作

清郷工作の自然消滅，儲備券の価値下落といった経済面の理由により，日本が期待をかけた傀儡の汪兆銘政権の権威はますます失墜します。そのため，日中全面戦争の秘密戦の中で，登戸研究所の偽造法幣が最終兵器となっていきました。第三章では，その背景を見ていきます。

（1）　参謀本部による経済謀略の失速

右の図のとおり，参謀本部は中国本土での対中国謀略は汪兆銘政権成立以降，この政権に政治・経済謀略の全てを集約し，戦争早期終結の全ての望みを賭けていました。

そのため，汪政権を使った謀略が奏功しない場合，蒋介石政権の法幣弱体化のための対中国謀略は登戸研究所製造の偽札が切り札となることがわかります。



①　傀儡政権の失敗

1936（昭和 11）年頃からの戦時インフレにより，日本円の価値は下落し戦費調達は困難に陥っていました。そういう中で戦時に傀儡政権を成立させることには次の利点がありました。

占領地経営による収益増
独自通貨の発行・流通による日本主導の経済圏形成，戦費調達の安定化
占領地での通貨統制による蒋介石政権の法幣駆逐と弱体化

そのため，日本が中国に複数の傀儡政権を樹立し，それを汪政権に集約した一連の流れは，対中国謀略としては理に適っていたと言えます。

しかし，日本の傀儡政権をほぼ統合した汪政権での工作を総括すると，

占領地経営としての清郷工作→失敗
独自通貨としての中央儲備銀行券→普及しないどころか価値下落
通貨統制→法幣の信用度の高さから逆効果

と，いずれも失敗に終わっていることがわかります。

②　経済面から見た汪兆銘政権の中身

実体の無い政権維持のための資金捻出は困難であり，戦局の悪化とともに，汪政権の財政はますます困窮していきました。ここでも，汪政権の財政部長であり中央儲備銀行総裁であった周仏海の日記を中心に政権の実態を見ていきます。

赤字財政

汪政権はそもそもが経営も日本の支援ありきで，当初より，日本からの借款を繰り返していました。主な収入は「関税」，「塩税」，「統税」[1] で，華北からの税収も中央に融通していました。ですが，毎月赤字が続き財政は火の車でした。当初周仏海は財政部長として，アヘンに特税を科すことで不足を補うことも考えていました。

(1) 商品の移動に課される通過税の代わりの税。一ケ所で課税すれば他地方に運んでも課税されない。

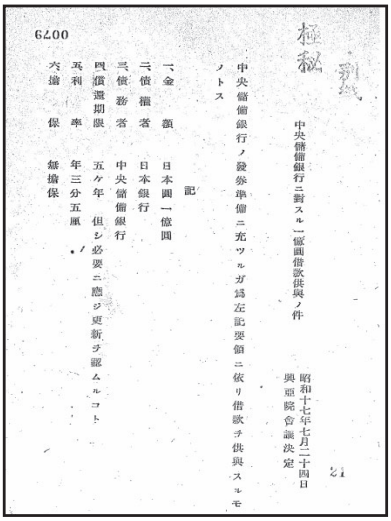
政権の赤字財政（『周仏海日記』より）
1942 年度一月収支（単位：万元）

	予算	実収入	決算額
関税	2015	250	-1765
統税	1214	200	-1014
その他	1130	351	-779
塩税	200	228	28
合計	4559	1029	-3530

『周仏海日記』から判明した汪政権による主な対日本借款（日付は主に調印日）

1940 年　3 月 29 日	4,000 万元（正金銀行経由）
同年　5 月 10 日	日英関税協定由来の上海市での当年 4 月分の関税剰余借用契約
同年 12 月 24 日	5,000 万元（銀行資本の一部として，華興商業銀行 [1] 経由） (1) 日本の傀儡の維新政府（南京）の銀行
1941 年　2 月 28 日	300 万元（華興銀行経由か）
同年　6 月 21 日	3 億円相当の貨物取引による信用借款決定
1942 年　6 月 10 日	3,500 万元の兵器（武器・被服等軍需物資の当座貸越）
同年　7 月 28 日	日本円 1 億円（儲備銀行券印刷用）
同年　8 月　3 日	日本円 3,000 万円（儲備銀行券印刷用）
1943 年　6 月 10 日	（金額不明）日本から金塊を持ち込み利益を中央儲備銀行に帰属
1944 年 12 月 15 日	金券発行準備として金塊（少なくとも 20 トン）を運ぶよう依頼

1940 年頃の換算基準　1 円≒ 1 元


6700

極秘　別紙

中央儲備銀行ニ對スル一億圓借款供與ノ件

昭和十七年七月二十四日
興亜院會議決定

一、中央儲備銀行ノ發券準備ニ充ツルガ爲左記要領ニ依リ借款ヲ供與スルモノトス

記

一、金額　日本圓一億圓
二、債權者　日本銀行
三、債務者　中央儲備銀行
四、償還期限　五ケ年　但シ必要ニ應ジ更新ヲ認ムルコト
五、利率　年三分五厘
六、擔保　無擔保

「中央儲備銀行に対する 1 億円借款供与の件」（部分）
（防衛研究所戦史研究センター所蔵）
アジア歴史資料センター所蔵公開
Ref.C04123657700

治安維持費・軍事費の膨張

安定した収入源として占領地経営を目指した清郷工作は 1942 年 5 月の影佐の左遷に伴い，彼に後ろ盾を求めた現場責任者 李士群が失脚し自然消滅しました。そして，もともと面従腹背であった占領地の治安維持費を含んだ軍事費は膨れ上がり，さらに汪政権の財政を圧迫しました。

周仏海日記

1942 年 5 月 29 日	…〔支那派遣軍総司令部付〕住谷〔主計〕大佐が来て軍事予算について相談する。… これまで日本軍部が支配してきた治安協力費及び物資統制設備費を … 交付停止，清郷〔工作〕及び軍事経費に回してくれたのであり，そうでなければ本期の概算編成は実に難しかった。…
1943 年 5 月 17 日	… 来年度予算編成を協議する。軍事費の膨張が巨額過ぎて，編成に手を着けられず，焦燥するのみ。…

日本側都合による華北での中央儲備銀行券（儲備券）使用制限

日本が多額を出資した中央儲備銀行券（儲備券）の目的は，汪政権の通貨として中国全土に流通させ，法幣を駆逐することでした。しかし，華北では日本軍が物資調達に使用していた軍用手票（軍票）や中国聯合準備銀行券（聯銀券）の流通に支障をきたす，という日本側の都合により使用を制限されました。それだけではなく，儲備券と聯銀券は直接交換することも出来ませんでした（軍票を仲介させれば可）。1937（昭和 12）年以降，日本軍の軍事力により聯銀券による通貨統制ができており，聯銀券が儲備券に置き換わる，もしくは流通通貨に儲備券が加わるという不都合，また，軍票の価値に影響することを嫌ったためでした。

周仏海日記	
1941 年 3 月 16 日	… 新法幣〔= 儲備券〕が順調に普及できない最大の障害はやはり日本の軍票である。日本は新幣に対し相変わらず徹底的な援助はしていず，口先ではうまいことを言うが実際には何もしないという性格がここにも見られる。…

対法幣交換レートの悪手

儲備券の普及を急ぐあまり，発行から約一年半後の 1942（昭和 17）年 5 月，もとは等価だった対法幣の交換レートを徐々に下げ 1 対 2 とすることを決定しました（儲備券の価値＝法幣の 1/2）。しかし，同時期に汪政権は南京市・上海市とその周辺三省で法幣の流通禁止と儲備券を統一通貨として宣言したことにより，銀行での取り付け騒ぎが起こります。このとき儲備券はさらに信用を下げ，米物価などの急上昇を招きました。さらには敗戦間際，1944（昭和 19）年には悪性インフレに見舞われ，財政は壊滅的な状況になりました。

周仏海日記	
1943 年 3 月 4 日	…〔知人との会話で〕たまたま新旧法幣〔法幣と儲備券〕を二対一で交換したことに話が及んだので，余は次のように言った。これは余の唯一の失敗であり，新旧法幣の等価交換を勝ち取れなかったことは今思いおこしてもなお心が痛む。…

政権内権力の腐敗

北京大使館情報課 大原実は「極秘」の出張報告書「同盟条約後の中支を観る」で，『周仏海日記』には記されない汪政権の実態を次のように報告しています。（以下一部要約抜粋）

首都南京の印象は「沈滞の街」/ 汪兆銘の取巻や部下は皆最悪との噂 / 汪本人は言葉は立派だが節操がない / 汪の妻 陳璧君は食糧・アヘン関係を握り私腹を肥やす / 周仏海は税金と警察権力を手中にし蓄財に励む / 政権内幕は日本人好みの名文句で煙に巻き，思う存分占領地域の民衆の骨をしゃぶっている / 和平軍・保安隊・警察隊などは日本側に忠犬ぶりを装うが民衆に対しては狂犬であり強盗，陰では蒋政権に協力 / 重慶側から人望無いことは自覚しているはず

『周仏海日記』で周は，敗戦間際，インフレのため日本側へ公務員給与の 50 ～ 70 倍の賃上げを要求し，さらに，周の次男によれば，彼の蓄財額は 1944 年末で金の約 3.1 キロの延べ棒 75 本分相当でした（2021 年 11 月現在，金 1g ＝約 7,000 円換算で約 16 億 3 千万円相当）。

(2) 「強い」法幣とアジア太平洋戦争の関係

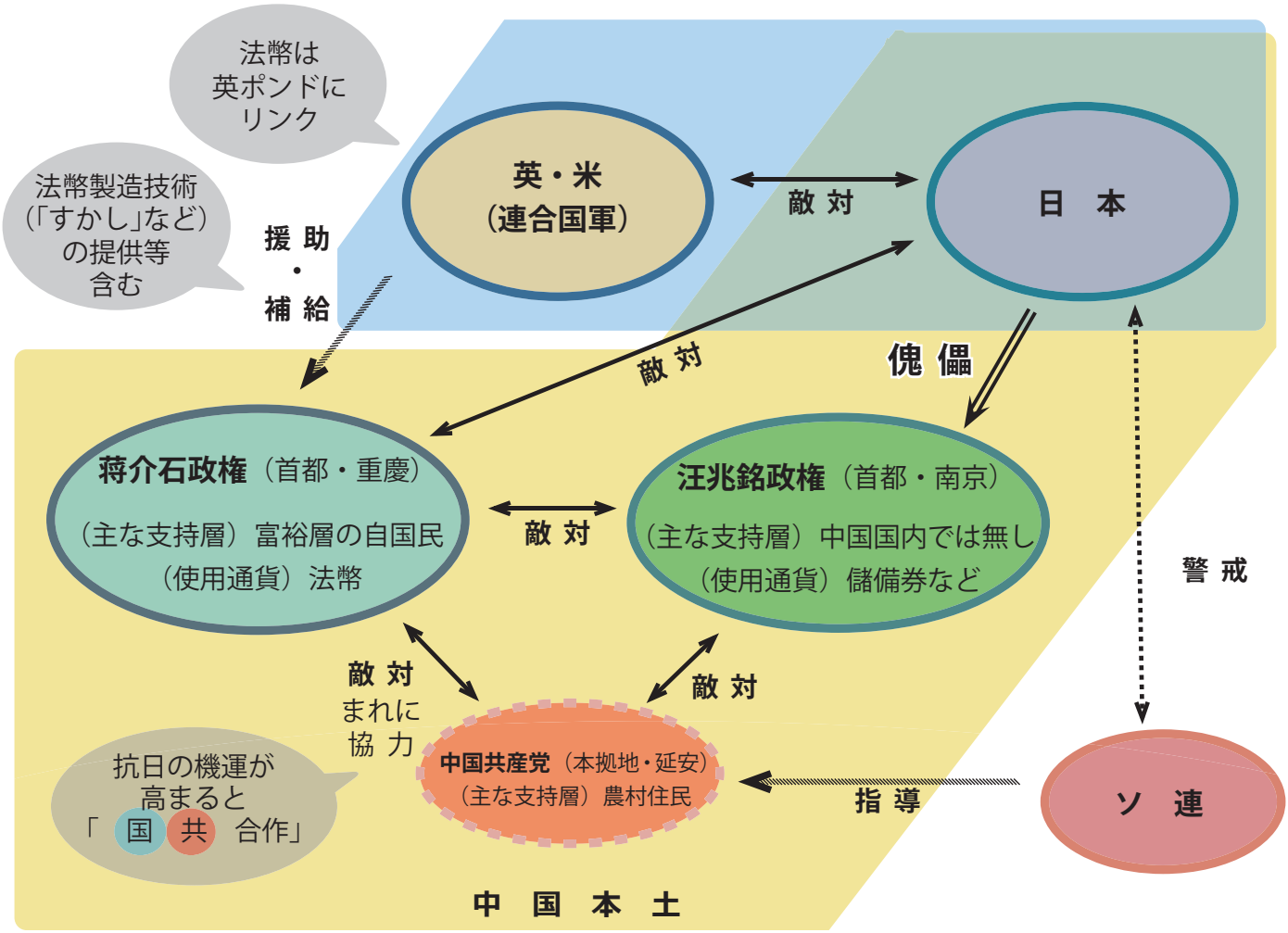
参謀本部が挑み続けた蒋介石政権の「法幣」。中国国内では圧倒的な信用度から，日本は法幣を駆逐することはおろか，弱体化も不可能でした。

中国では歴史が浅い法幣制度でしたが，英米の支援と技術に支えられていたため，法幣を駆逐しようとすることは英米に対する挑戦でもありました。そのため，法幣の偽札謀略は，「蒋介石政権とそれをサポートする英米」対「日本」という構図になっていました。

そもそも日米開戦を回避する条件として，米国からの「ハル・ノート」では日本に次のことを求めていました。

- 中国からの日本軍の撤兵
- 汪兆銘政権の否認
- 三国同盟の空文化

これらを履行できないと判断した日本は米国に対し開戦に踏み切りました。したがって，主に太平洋上で展開された対米戦争は，日中戦争の延長線上にあると言えます。また，中国本土での全面戦争は，対蒋介石政権だけでなく，当時農村を中心に力を伸ばしていた共産党勢力を加え，アジア太平洋戦争開戦直後は次のような構図になっていました。



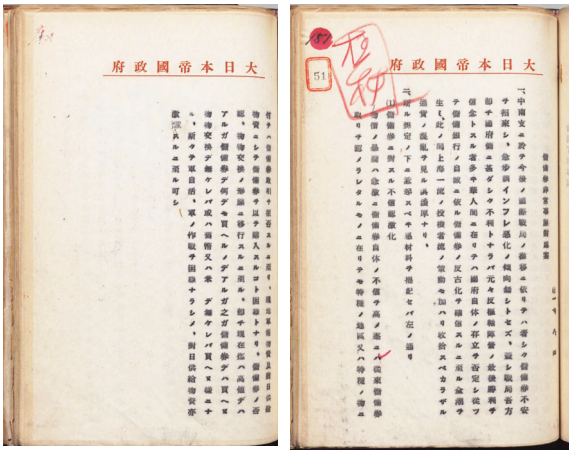
（3）　重要性を増す登戸研究所製の偽造法幣

蒋介石政権を弱体化させる手段としての登戸研究所の偽造法幣。ますますその重要性が高まった背景を見ていきます。

①　儲備券価値の低下

頁上部に手書きで「極秘」と記された右の資料は，戦局により，儲備券が著しく価値を落とし，反故になる可能性を鑑みて出された対処案です。

その理由のひとつとして，「儲備券に対する不信感激化」とあり，特種地区での物（米など）を購入する際，儲備券の受取拒否が起こっており，将来的に使用できなくなり，軍の作戦などに支障を来すだろうことが報告されています。



昭和 17 年 8 月 4 日付「儲備券非常事態対処案」（部分）
（国立公文書館所蔵）
アジア歴史資料センター公開 Ref.A17110555000

②　聯銀券，軍票の限界

儲備券と同時期に併用されていたのが，謀略の一環で使用された華北の聯銀券や華中・華南で通貨として使用されていた軍票でしたが，これらは法幣を駆逐する勢力として儲備券の代役にはなり得ませんでした。

聯銀券…日本軍の軍費として使用され，日本の軍事力が及ぶ（抗日勢力を抑え込め得る）地域での使用を限定された管理通貨

軍　票…「軍行動の自由と生命確保のための経済武器」のため，物資調達と軍票の価値の維持が軍の生命線であり，日本軍の豊富な物資に対する信用を基礎に交換が成立するため，法幣を攻撃（駆逐）する性質を持ち合わせない

③　奥地での「法幣一強」

日本の中国本土での占領地は，広大な大陸においてはごくわずかで，少し奥地に行けば法幣しか通用しないというのが普通でした。そのため，大陸奥地での戦時物資調達のためには偽造法幣は非常に有効でした。

④　唯一残された「法幣の偽造」という対抗手段

儲備券での法幣の駆逐が期待できなくなると，法幣＝蒋介石政権を弱体化させるには「偽造」法幣を大量に流通させることで経済攪乱を起こす，という謀略が最後の手段として残りました。

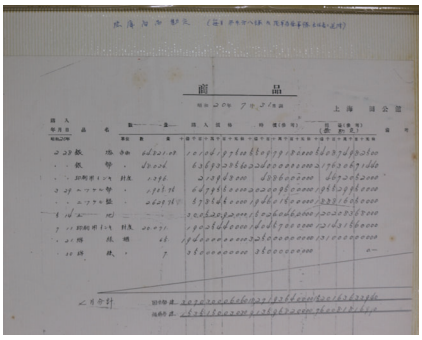
この謀略成功のカギは「流通ルートの確保」と「量産体制の確立」にありました。

流通ルートの確保

この偽造法幣謀略のため，第四展示室で紹介している，阪田誠盛（さかたしげもり）の阪田機関を中心としたルートに加え，松機関での流通ルートとして，敵側への流通拠点である蚌埠（バンブウ）〔安徽省北部〕に参謀本部の岡田芳政が機関長を務めた松機関の支部や関門を設置，敵側との直接交渉取引も行いました。

また，山本が偽造法幣で阪田機関が購入したものを参謀本部へ報告していたことがわかる資料も現存しています。

原田清『昭和 18 年 12 月 17 日　中国における戦争経済備忘録』表紙と巻末「蚌埠日華雑穀共同委員会収買地域要図」（狛江市教育委員会所蔵）
山本憲蔵旧蔵。蚌埠と南京を結ぶ地図。右下が南京，左上の◎に囲まれた駅が蚌埠。



山本憲蔵旧蔵「アルバム」に貼付された，上海・田公館（阪田機関）の買付商品リストコピー（狛江市教育委員会所蔵）
上部に山本の自筆（青字）で，「陸庫商品勘定（毎月参本〔= 参謀本部〕第八課及陸軍省軍事課主任者へ送附）」とある。

写真「山本憲蔵〔左〕と阪田誠盛〔右〕（狛江市教育委員会所蔵）

量産体制の確立

偽札を大量に流通させるためには，当然，大量に製造する必要があります。

戦時中，日本銀行券や植民地（満州，朝鮮，台湾）の紙幣を製造していたのは，本来，内閣印刷局のみでしたが，聯銀券，儲備券などを製造する程の余力はありませんでした。そのため，偽造防止ができるほど高度な製紙や印刷技術を持つ民間企業などが選ばれ，製造にあたりました。分担などを整理すると，これら企業，機関と登戸研究所第三科との紙幣製造機関同士のネットワークが示唆されます。

券種／分担	軍票 蒙彊銀行券 華興商業銀行券	聯銀券 （華北）	儲備券 （汪兆銘政権）	偽造法幣		＊企業名は判明しているものの ＊越前和紙組合は 1942（昭和 12）年以降の名称は越前製紙工業小組合 ＊巴川製紙所と凸版印刷はともに社長が実業家の井上源之丞 ＊登戸研究所第三科は敗戦直前に福井県へ疎開 ＊内閣印刷局は登戸研究所に技術指導
製紙	福井・越前和紙組合，巴川製紙所？	越前和紙組合	越前和紙組合，巴川製紙所？	巴川製紙所，特種製紙	陸軍 登戸研究所 第三科	
印刷	凸版印刷					
関係機関	内閣印刷局（1943（昭和 18）年 11 月以降は大蔵省印刷局）					

1940 ～ 41 年頃には，民間製紙会社により，登戸研究所が単独で偽造法幣用紙が量産可能になる程度のすかし・技術が完成していました。また 1942 年には，香港の法幣印刷工場から「ホンモノ」の法幣と同じ材料・製造機械を接収したことにより「ホンモノ」同様の偽札製造が可能になりました。

このように偽札の量産体制が確立した登戸研究所の第三科はさらに期待をかけられるようになり，敗戦まで拡大し続けていったのです。

おわりに

登戸研究所で製造された「偽札」とその工作について初めて見聞きしたとき，なんと滑稽で愚かな作戦と感じられた方も多かったのではないでしょうか。

しかし，参謀本部の対中国謀略を概観したうえで偽造法幣謀略を検証すると，傀儡政権を成立させる政治謀略や他の経済謀略に並行して行われたこの工作は，打倒・蒋介石政権＝法幣の枠組みで考えると，重要な経済謀略であったと言えます。

たかが「偽札」で戦争に勝てるわけがない―ですが，影佐機関が全てを賭した汪兆銘政権に暗雲が立ち込めた時，登戸研究所が製造した偽造法幣は，「引いては終えられない戦争」を継続するために残された，一条のクモの糸のようなものだったのかもしれません。

「偽札」や「謀略」に感じた滑稽さや愚かさは，今，私たちが生きる現代社会にも形を変えて存在しているような気がしてなりません。今回の企画展が，皆様にとって，何かを考えるきっかけとなりましたら幸いです。

謝辞

本企画展を開催するにあたり，下記の方々，機関にご協力，ご後援いただきました。
ここに記して感謝の意を表します。
（敬称略・五十音順）

協力

大島規弘 / 狛江市教育委員会 / 塚本英史 /
防衛省防衛研究所戦史研究センター

後援

川崎市 / 川崎市教育委員会